

よっ葉だより

2025 年
9月22日号
No.853

～地産地消～
いのちと健康くらしを守る
よっ葉生活協同組合



よっ葉のお仕事ってどうなってるの？ ～セットライン親子見学（7月31日）



今回初の試みで、よっ葉生協小山センターの見学会を開きました。夏休みの自由研究に役立ちそうな企画（！）ということもあって、親子5組、小学生を中心に子どもたちも参加しました。

生協ってなんだろう？、よっ葉生協の特徴や取り組みの説明を聞いたあと、「安全に見学すること」を約束して、いよいよ外へ。衛生帽子をかぶってワクワクが高まります。2グループに分かれて中田専務、商品部中岡職員の説明を聞きました。

小山センターに納品された商品は、組合員ごとにセットして3センター

（小山、塩谷、伊勢崎）からお届けしています。野菜・果物セット室では、自動袋がけ機械を見学しました。大人の背よりも大きい機械で、ロール状のビニールを袋にして発泡箱へかけます。ライン作業は夜7時からなので、今回は見学できませんでした。

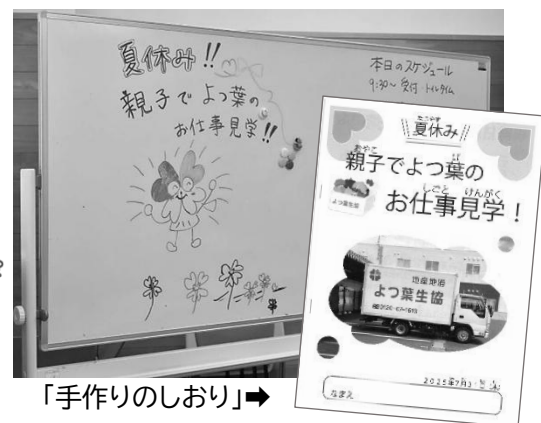
冷凍品セット室は室温 10℃！ 寒くて、「早く出たい～！」の声が上がりつつ見学。働いているパートさんは、長袖長ズボンの真冬の格好です。見学者はみな半袖で、とても寒かったですが、セットラインの終点で待ち伏せして、ひとりずつの商品が大きな保冷箱に入る様子を興味津々でのぞき込んでいました。ドライ商品セット室は、2本のレーンに空段ボール箱が次々に流れています。最大 1100 点の中からパートさんが手際よく、箱に詰めていくところを見ました。参加者の手元には、かわいい手作りのしおり。メモ欄があるので、聞いた内容をしっかりメモしていました。

蓄冷剤凍結庫にも入りました。冷凍蓄冷材（黄色）を凍らせています。室温は -35℃！！ この中は寒すぎて、「入ってみる！」と果敢に挑戦した子どもたちも、次々に出てきました。

本部に戻ってからは、中岡職員からよっ葉のリサイクルについて話を聞きました。Rびんや卵パック、牛乳パックなど、回収し活用されていることが分かりました。クイズでは、セットラインには4つの温度帯があること、56名のパートさんがいることも分かりました。

最後に、よっ葉生協の商品を試食しました。有機小麦パン、ジャム、お菓子など、くらら商品をおいしく食べました。中岡職員には「どうしてこの仕事をしているのですか？」という真摯な質問もありました！ よっ葉生協のお仕事の一端に触れて、夏休みの思い出が増えたと思います。子どもたちに喜んでくれたので、また企画したいです。

（理事 三輪）



「手作りのしおり」➡



「自動袋がけ機械、2か所で動いています」



「真剣に話を聞きながらメモもとります！」



「段ボール箱に次々商品が入れられていきます」



「大型トラックに積み込む作業も見学しました」



「有機小麦パン、ジャム、お菓子など♡♡♡」



大発見です!!



とちぎ食の安全ネットワーク世話人会学習会

「日本漁業の現状を知る」宇都宮大学名誉教授 宇田先生

第一次産業であり、日本の基幹産業であるべき漁業の厳しい現状を学習しました。

○日本の総漁獲量は、1984 年（1280 万トン）をピークに、2023 年には 383 万トンまで低下。特にスルメイカとサンマ、サケ類が減少。

○世界の水産資源の 35%は、すでに過剰漁獲状態とされ、回復は見通せていない。世界は養殖に活路を見出し、日本政府も 2018 年の漁業法改定（2020 年施行）を境に、養殖業の成長産業化を目指すとして、2019 年ロードマップを公表。

○年齢別漁業就業者の減少

2003 年 23.8 万人（65 歳以上 33%）

2023 年 12.1 万人（65 歳以上 37%）

○純魚介類の年間摂取量 一人あたり

1989 年度 37.4k g

2023 年度 21.4k g（肉類 38k g を消費）

2011 年に、肉類が上回る。

日本では魚介類の消費量は減少しているが、世界では逆に増加している。

→「一定海区に定置網を設置する漁業」と「海面上の区画に生けすを設置して行う養殖」、それぞれにあった漁業権の優先順位について第一順位は、地元漁民の 7 割以上が組合の漁協だったが、新規の参入希望企業等があり、「地域の水産業の発展に最も寄与する」という知事判断があれば、当該企業に漁業権が付与される。

○養殖事業の課題

（1）餌の開発と確保

日本は魚粉、魚油、餌原料となる小魚（イワシ、アジ、サバ）を輸入利用。大豆、トウモロコシなどを配合し、魚体加工残渣を魚粉にする。世界の全漁獲量に対する餌用魚類割合は 12%になっており、海洋天然魚数の持続保持が課題

（2）種苗（稚魚）の確保

養殖に使う稚魚の入手先

1）人工種苗 マダイ、ヒラメ、トラフグ、シマアジ、クルマエビ

2）天然種苗（国内産） ブリ（ハマチ）、マグロ、イシダイ、カワハギなど

3）天然種苗（外国産） カンパチ、スズキ、イサキなど

サケ類は、人工ふ化技術が確立している

ウナギは、人工ふ化が未確立なため、養殖に必要なシラスウナギは、天然物の採捕と、香港からの輸入（輸入が半分以上を占めている）

※ゲノム変種技術の推奨 日本は大学と連携して、諸外国より実績を出している

- ・成長が早いマダイ（筋肉増殖を抑制する遺伝子（ミオスタチン）を破壊し、成長が数倍早い
- ・食欲を抑制するホルモン（レプチン）遺伝子を破壊したヒラメとトラフグ
- ・衝突死しないように運動制御する受容体（リアノジン）機能を壊しておとなしくしたマグロ

・同じように共食いしないおとなしいサバを開発中。

（3）魚病対応（主に薬剤耐性菌問題）

・ワクチン製剤 10 魚種用 28 製剤

・抗菌剤（抗生物質）13 製剤（95 商品）

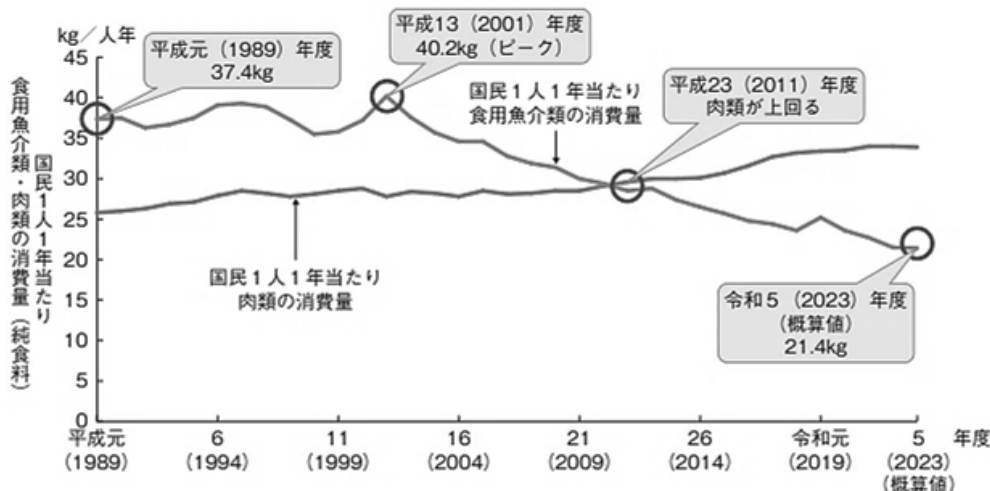
・駆虫薬 4 種、麻酔剤 1 種、外用消毒剤 5 種、ビタミン剤 3 種

（4）養殖が引き起こし得る環境への悪影響（ASC の指摘と施設認証の視点から）

ASC とは、2010 年に設立され、責任ある養殖漁業の実現のため、ASC 認証制度を運営する国際非営利団体。水産養殖では、養殖池や生けすからの排泄物、えさの食べ残しの排出による汚染、生けすの破損、自然災害で脱走することによって外界への病原菌の拡散、他魚への遺伝子攪乱により生態系への悪影響、絶滅危惧種や保護区に与える影響。

・沖合養殖と陸上養殖とも新漁業法によって今後新規参入しやすく、陸上養殖は漁業権を必要としないため、大型化する傾向にあります。

食用魚介類の1人1年当たり消費量の変化（純食料ベース）



資料：農林水産省「食料需給表」

○魚介類、海藻類の自給率推移

食用魚介類 2015 年 59% → 2023 年 54%

海藻類 2015 年 70% → 2023 年 65%

2023 年の国内向け消費量の 45%は輸入

○養殖漁業の現状 国別産出量（2022 年）

①中国 7540 万トン ②インドネシア 1465 万トン ③インド 1030 万トン

日本 2000 年 129 万トン→2022 年 94 万トン

新漁業法

日本の養殖の立ち遅れ、小規模事業者が圧倒的に多い中で、異業種も参入し、海外との競争力を促すように 1949 年以来の改正を行いました。

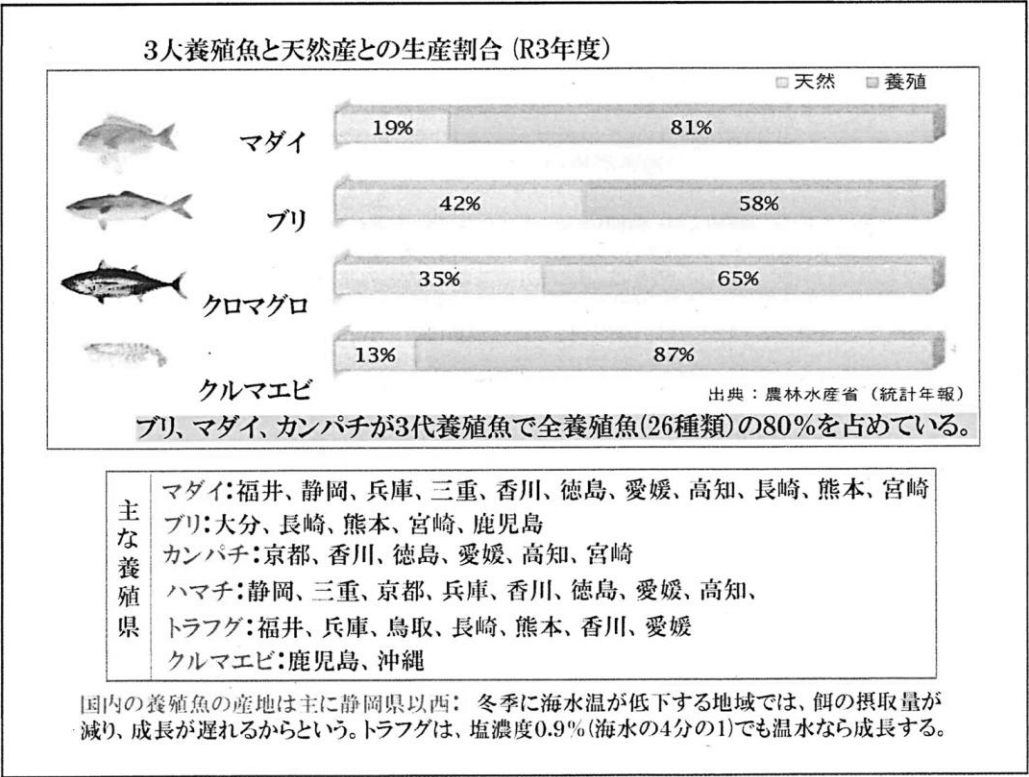
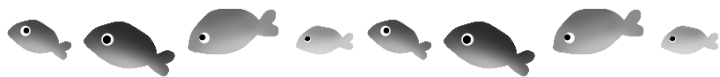
・漁業許可制の変更→5 年ごとに農水大臣が漁業許可を全国一斉に更新を、

→新規参入に対して、申請があれば随時許可

・定置および、区画漁業権の見直し



魚離れが進み、食卓が魚から肉に占める割合が増えています。周りが海の島国日本は新鮮な魚の宝庫です。漁獲量が減っているのは、沿岸漁業の後継者が激減していること、海水温の上昇による魚種の移動と不漁、養殖魚の輸入による価格差による消費者の国産魚離れなど、人的要因、自然環境の悪化などが要因になっていると思います。新漁業法によって養殖事業に大規模企業が既に参入したり、企業の遠洋漁業の大量水揚げなど、沿岸漁業の家族経営が成り立たなくなっています。農業の大型化、集約化と同じようなことが漁業にも起きています。沿岸漁業は、気象条件に大きく左右され、収入もそれ次第で、後継者がいない場合は船の老朽化が廃業に即つながります。



よつ葉生協では、魚類の養殖はうなぎ、エビ、貝（牡蠣、ホタテ）、海藻類です。養殖魚をなるべく使わないのは、餌、投薬、環境への問題があるからです。古来から沿岸漁業が中心で成り立っていた日本の漁業は、森、山とつながって、自然環境を作り出していました。化学工業が発達し、海への汚染、現在ではマイクロプラスチックによる魚介への悪影響の問題を抱えています。

問題が明らかになることで打開策を議論されるようになってきています。地球環境全体の問題として、海洋汚染、海水温の上昇など、多岐にわたる問題の1つとして漁業の課題もあります。

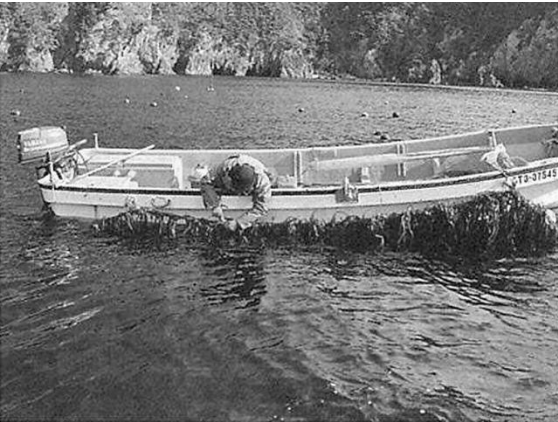
日本の食の自給率、自給力が常に問題になっていますが、農業、漁業、林業などの第一次産業が後景に押しやられ、輸入に頼る安心感がこの現状の危機的現状をうすめていると思います。

養殖業の一番大きい問題はゲノム編集技術の魚種の拡大です。日本では、「ゲノム編集技術は遺伝子組み換えではなく、自然に起きる突然変異と同じなので、製造元が安全の確認を取ることができれば届出だけで良い」となっています。しかし、突然変異で短期間で大きくなるマダイやヒラメ、トラフグがいるでしょうか。食欲制御する遺伝子を切断することによって、食べ放題の魚を意図して作っているのです。

海洋に流れ出す心配、切断する時に使用する抗生剤の残留などあります。マダイ、トラフグをふるさと納税の返礼品として使用していた市は、住民の反対運動で撤退したという明るいニュースも出てきています。日本はゲノム編集の第一人者として研究が進んでいますが、消費者の選択次第で頓挫させることができた前例を作り出したことになります。

食卓に日本近海でとれた魚をのせ、日本の農業と漁業を守る和食の「こまごわやさしい」を続けていきましょう。

(顧問 富居)



「重茂漁協 わかめ収穫風景」



「さんま水揚げ風景」



「無茶々園 ちりめん漁風景」



「枝幸漁協 秋鮭水揚げ風景」



「静岡うなぎ漁協 出荷風景」



参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

つくば

つくば北条ってどんな街？

～歴史に会いに行こう～

日本の道百選つくば道の起点、つくば市北条地区の建物や歴史、矢中の杜を貸切にて、代々在住の方にご案内いただきます。

日 時：10月22日（水）10：00～12：00（受付9：45～）

会 場：つくば市北条地区 北条商店街駐車場
（茨城県つくば市北条24）

参加費：組合員 大人 500 円 子ども（小・中学生）500 円

一 般 大人 750 円 子ども（小・中学生）750 円

定 員：10 人

託 児：な し

締切日：10月10日（金）

主 催：文化委員会



文化イベント情報

■各イベントのお問い合わせは、直接主催者または連絡先をお願いいたします。

とちぎ

2025 年度日本郵便年賀寄付金助成事業 第 45 回栃木市・栃木文団連文化祭

人形劇団プーク エルマーとりゅう ～カナリア島のぼうけん～

日 時 10月13日（月・祝）13：30 開場 14：00 開演

上映時間 1 時間 30 分（途中休憩あり）

会 場 とちぎ岩下の新生姜ホール 大ホール（栃木市旭町 12-16）

チケット 【一般前売り】子ども 1800 円（18 歳まで）大人 2800 円

【グループ割】＊5 名以上事前申込みのみ

子ども 1500 円（18 歳まで）大人 2500 円

4 歳未満無料＊席を取る場合は有料/おやこ劇場会員は会費のみ

よつ葉生協組合員は「グループ割」価格でお申込みいただけます。

<プレイガイド>とちぎ岩下の新生姜ホール／太平文化会館／小山市立文化センター

主 催 子ども未来アートフェス実行委員会／NPO 法人栃木おやこ劇場

あらすじ

りゅうを助けたエルマーは、次なる冒険の舞台カナリア島へ。「しりたがりのびょうき」のせいで島中は大騒ぎ！
相手を知ってどんなこと？島に隠された宝とは？！

問合せ

NPO 法人 栃木おやこ劇場事務局内

TEL 0282-21-8776

（月・水・金（祝日除く）11～15 時）

MAIL info@tochigiyoako.jp



チケットは
こちらから
も

セットライン 親子見学に参加した 子どもたちの感想



とてもたのしかったです。またきたいです。いっぱいみたいです。
ししょくがおいしかったです。ありがとうございました。（R さん）

とても説明が分かりやすかったです。今日の見学で、初めて分かった
ことがたくさんありました。野菜・冷蔵セットラインで働いている人
は、夜7時ぐらいから12時くらいまで働いていることが分かりまし
た。今日はとても楽しかったです。（A さん）

せつめいがちょっとむずかしかったけど勉強になった。れいぞうこ
も、れいとうこもさむかった。あるいてつかれたけど、たのしかっ
た。またやりたいと思った。（E さん）

しらないところにもいけたし、ごていねいにしおりまでくれたし、い
ろんなことを、くわしくしゃべってくれて、しかもわかりやすかった
しもう一回行きたいです。（Y さん）

いろんな食べ物のけんがくができてよかったです。いろんな所でさ
むかったけど、はたらいっている人の気持ちがわかりました。パンとお
かしのししょくもおいしかったです。とどけてくれたものがいろん
な手間がかかっているのが大切にたべようとあらためて思えまし
た。（S さん）

ありがとうございます。おかげでいろいろなことがしました。
リサイクルにもなることもわかりました。よつ葉のはたらいて
いる人がこんなにいそがしいことがしました。（K さん）

あまり経験のできない事なのでとても良かったです。この経験
を生かして生活したいと思いました。今日は見学させていただき
ありがとうございます。（I さん）

めちやくちゃ寒いところにいけてよかったです。いろいろ、いつも見
れないところを見てよかったです。（N さん）

さむかった。（K さん）

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告（9月2週分）

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちは今週も寄せられています（単位：円）

放射能から子どもを守る募金（900 番）	7, 000
震災孤児を支援する募金（910 番）	18, 000
「有機農業と国産種子」募金（920 番）	8, 900
合 計	33, 900

共同購入注文書裏の「10 品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。
WEB 注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。
一口 100 円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホーム
ページ



Facebook



Instagram